

令和5年度 宝木中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

- (1)基本目標 「人間尊重の教育を基盤に、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、心身共に健康で知性と創造性に富み、心豊かでたくましく未来を拓く人間の育成」
- (2)具体目標（具体的な生徒像）
- ①気力・体力のあるたくましい生徒（たくましく）
 - ②自ら学びよく考える生徒（さとく）
 - ③心豊かで礼儀正しい生徒（あかるく）
 - ④協力し社会に役立つ生徒（いきいきと）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は ○子どもたちにとって安心して楽しく充実した学びができる場所であること⇒（行きたい学校）
 ○教職員にとって働き甲斐を感じながら意欲的に取り組むことができる場所であること⇒（勤めたい学校）
 ○保護者、地域の皆様から信頼される場所であること⇒（通わせたい学校）
 このような学校を目指し、信頼と心の触れ合いを基盤とした豊かな人間関係に支えられた「ぬくもりと夢のある学校」づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1)学習指導要領や第2次宇都宮市学校教育スタンダード等の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特色を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2)生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図り、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (3)生徒理解を基盤として生徒指導の充実を図るとともに、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育を推進し、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (4)道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (5)家庭との連携を強化し、健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康に生活していく基盤づくりに努める。
- (6)生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (7)デジタル機器を活用し、業務の効率化や簡略化等を図り、生徒に向き合う時間の確保と教職員の勤務時間の適正化に努める。
- (8)児童生徒の9年間の成長を見通した小中一貫教育を推進し、学校園で共通理解を図りながら宝木地域学校園が目指す心豊かな生徒の育成に努める。
- (9)よき伝統や地域の特色、教職員の創意工夫を生かしたSDGsの取組など特色ある学校づくりの推進に努める。
- (10)積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、魅力ある学校づくり地域協議会を効果的に活用し、生徒の地域行事への協力やボランティア活動を通して、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

テーマ「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します。

他を思いやる心や規範意識を育み、基本的な生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実

4 教育課程編成の方針

- (1)基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。
- (2)小中学校の連携を図り、生徒会や各教科の出前授業などの交流を継続する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1)学校運営 ・全教職員が学校の課題を共通認識し、課題解決のためにチームとして取り組む協力体制の確立
 ○生徒の学力向上を目指し、教員の授業力向上並びに学業指導、キャリア教育の推進
- (2)学習指導 ○授業のねらいに基づいた振り返りと自主学習ノート等の活用による家庭学習の習慣化
 ・学校課題に即した研究授業や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (3)児童生徒指導 ○自己肯定感や自己有用感を育てるとともに、よりよい人間関係づくりと不登校対策の推進
 ・問題行動の未然防止と早期発見
- (4)健康（保健安全・食育）・体力 ・危険の予測や危機回避能力の育成を図る防災教育の推進
 ・感染症予防や食育を通じた健康で安全な生活習慣の確立

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・積極的に話し合いやグループ活動を取り入れるとともに, 生徒が意欲的に授業に取り組めるよう, 宇都宮モデル「はっきり! じっくり! すっきり!」を実践し, 授業改善を図る。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は88.4%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を進めるため, 話し合い活動を積極的に取り入れられるよう, 授業の年間指導計画のさらなる見直しと授業改善を図る。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・道徳の授業では, 資料提示と発問の工夫を行い, 判断力等が高められるようにしていく。 ・日々の授業や学校行事などで, 友達と互いのよさを感じられるような活動を取り入れ, 思いやりや協働する心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.1%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や学校行事など, あらゆる場面で, 友達と互いの良さを認め合えるような活動を実践する。
	A3 生徒は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・学校行事や部活動を通して最後まで粘り強くやり通す力がつくように適切な目標を設定させ, 有意義な体験ができるように支援する。 ・家庭学習の適切な目標を設定するために自主学習シートを適時使用し, 毎日自主学習を提出させることで計画的に学習する習慣を育成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が昨年度より2.7%低く81.3%であったが, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・部活動や家庭学習などで, 目標を達成するために粘り強く取り組むことができるよう指導していく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・食育や体育的活動の充実を図り, 自分に合ったバランスの良い食生活を意識すると共に, 体力増進に努めるなどして健康的な生活ができるようにする。 ・事前に必要な知識を教え, 生徒が自分の判断で避難行動ができるよう, 計画的な避難訓練を実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は88.4%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・健康・安全教育の充実を図り, 生徒が自らの判断で感染症等の予防や避難行動ができるよう計画的に指導していく。 ・食育や体育的活動の充実を図り, 自分に合ったバランスの良い食生活を意識すると共に, 体力増進に努めるなどして, 健康的な生活ができるようにする。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は, 自分のよさや成長を実感し, 協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・キャリアパスポートを活用し, 学習したことを積み重ねていく過程で振り返りや反省を繰り返すことにより, 学習した内容の深化を図り, 進路に関する目標を考えさせる。 ・地域学校園で「キャリア教育の指針」を作成し, 小学校と連携してキャリア教育を行う。 ・地区体育祭や宝木まつりなどの地域活動やボランティア活動に参加するよう, 教室へのチラシ掲示や生徒会からの働きかけを行い, 社会貢献を積極的に行う態度を育成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は82.8%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・キャリア教育の充実を図り, 進路に関する目標を明確にしていく。 ・ボランティアや社会体験活動に参加できる機会を与え, 社会貢献を積極的に行う態度を育成する。

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業で Small Talk を継続し、英語でやり取りする活動の場を作る。 ・授業以外で ALT と生徒が直接コミュニケーションをとる機会を増やすために、休み時間や清掃の時間等にも ALT が生徒と積極的にかかわれる場面を設定する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 65.6%であり、数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・英語の授業では、引き続き、担当教師や ALT、生徒同士で英語を使ってやり取りする場面を設ける。また、英語を使ってコミュニケーションをしたことへの賞賛を意識的に行い、生徒の自己肯定感を高められるようにする。</p>
	<p>A7 児童生徒は、宇都宮の 良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の年間指導計画に、宇都宮学を位置づけ実践するなど研究を深める。 ・断郊協歩大会において、大谷資料館や多気山、市美術館を見学し、宇都宮の歴史や文化を体感して学ぶ機会を持ち、俳句作りや振り返り等で深化を図る。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より 1.4% 低く 83.7%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間の「宇都宮学」で宇都宮の歴史や文化を学び、断郊協歩大会を通して、学びを深めていく。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科及び総合的な学習の時間における調べ学習等で、1人1台端末や図書、資料等を活用する力を育成する。 ・「AIドリル」を活用した家庭学習を推進する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.2%であり、数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・各教科の授業で、1人1台端末の効果的な利用方法の研究を継続し、その活用を図る。 ・自主学習ノートだけでなく、「AIドリル」を活用した家庭学習も行えるよう、各教科での活用を促す。 ・図書室にある資料を授業で活用するために、カリキュラムの中に位置づける。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」 について、関心をも っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害等、身の回りに起こっている出来事に関心をもたせる。 ・生徒会活動や各教科の学習の中で、SDGs について意識したり、理解を深めたりする場を設定し、「持続可能な社会」への関心を高める。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.7%であり、数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・SDGs の取組を、各教科でも学習できるように工夫する。 ・生徒会各委員会を活用し、日常的に行う活動を通して「持続可能な社会」への関心を高める。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の教育相談部会、及び校内支援委員会(年3回)を通して、一人一人の教育的ニーズを把握する。 ・特別支援小委員会やケース会議を適宜開き、チームで方向性を協議しながら支援を行う。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員間の連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズを把握し、支援を行う。</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳・学活の年間指導計画に、いじめ根絶に向けた授業を年4回位置付け、実施する。 ・5月、9月、12月、2月に「いじめの調査」を実施し、未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より 2.4% 低く 92.6%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳・学活の授業で、いじめ根絶に向けた授業を実施する。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、励まし、賞賛等の言葉かけや、生徒が活躍できる場面を設定し、学級が生徒の居場所となるような温かい雰囲気を作る。 ・宮っ子ダイアリーを活用し、生徒理解を深めるとともに、日常的な生徒の観察を充実させる。 ・意図的・計画的に教育相談を実施し、配慮生徒への支援を行う。(ケース会議・チーム対応) 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は昨年度より4.2%低く92.6%であったが、数値目標に達した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教育相談体制を充実させるとともに、日常的な生徒の観察を強化し、教職員で連携を図りながら配慮生徒への支援を行う。
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事等において、生徒会や学級委員長を中心に、生徒の主体的活動を積極的に取り入れ、リーダーの育成を図るとともに、生徒同士が主体的に活動する態度を育てる。 ・Q U等を活用し、自己肯定感の醸成を図るとともに、学級での潤滑な人間関係づくりができるよう個々に応じた指導や相談を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は91.1%であり、数値目標に達した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事等において、リーダーの育成を図り、生徒同士が主体的に活動する態度を育てる。 ・Q U等を活用し、個々に応じた指導や相談を行う。
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・理解の状況に応じた繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導など、個に応じた指導を充実させる。 ・一人一授業公開をし、意見交換を行うことで教員の授業力向上を図る。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.6%低く90.2%であったが、数値目標に達した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で本時のねらいを提示し、生徒が授業のポイントを捉えて授業を受けられるようにする。また、授業の振り返りを行うことで、家庭学習で確認すべきことをはっきりさせる。 ・一人一授業公開をし、意見交換を行うことで教員の授業力向上を図る。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種部会及び会議等のみならず、日々の報・連・相を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図り、今後の指導の手立てや方針を確立し、組織的な対応に努める。 ・各セクションのリーダーを中心に、関係職員や関係機関との連携を密にする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は昨年度より2.7%高く97.1%であり、数値目標に達した。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種部会及び会議等のみならず、日々の報・連・相を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図る。また、様々な課題に対して、教職員が連携し、組織的に対応できるようにしていく。
<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を充実させ、業務の精選・効率化を図る。 ・会議等の効率化のため、内容を精選し、連絡事項については、日報等で簡潔に伝達できるようにする。 ・文書やデータ、各教科の物品などの保管場所を設定するとともに、整理をし、機能的な環境をつくる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は77.1%であり、数値目標に達しなかった。 <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を充実させ、業務の精選・効率化を図る。 ・文書やデータ、各教科の物品などの整理を行い、機能的な環境整備に努める。 ・会議の連絡事項については、朝の打合わせや掲示板の利用など、別の手段で簡潔に伝達できるようにし、会議内容の精選に努める。

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園各部会の取組について、生徒へ紹介する機会を設け、学校ホームページで情報を発信することで保護者への啓発を図る。 ・生活面と学習面で、小学校と中学校のつながりがあることを意識させる。 ・小中の情報交換を充実させ、よりよい生徒の育成に努める。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は80.4%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域学校園各部会の取り組みの中で、小中合同で行っているあいさつ運動やお弁当の日などを意識させていく。 ・生活面や学習面で、小学校と中学校のつながりを持たせ、地域学校園の連携を深める。 </p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「茶道教室」、「働く人に学ぼう」、「宮っ子チャレンジウィーク」など、総合的な学習の時間において地域の人材を活用する。 ・学力向上のための「放課後自習支援」や「防災教室」などにおいて地域の人材に協力を求め、学校教育を推進する。 ・「高校説明会」など、関係機関や企業等と連携した活動を行う。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より2.8%高く100%であり、数値目標に達した。また、地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・「防災教室」や「茶道教室」を通して、地域の人材を活かし、よりよい生徒の育成を目指す。 ・「働く人に学ぼう」では、地域の人材の協力を得て、講師の依頼をする。 ・「宮っ子チャレンジウィーク」の新しい体験場所を地域の協力を得て、開拓する。 </p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確実に実施し、市会計年度任用職員（学校業務）や機動班との連携を図り、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・危機管理マニュアルを元に、安全教育年間計画を見直し、計画的に実行する。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・適切な感染症対策を実行する。 ・危機管理マニュアルを元に安全教育の年間計画を見直し、計画的に実行する。 </p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、1人1台端末の効果的な活用法について研究を進める。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、1人1台端末の効果的な活用法について研究を進める。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して生徒会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの大切さを気付かせる。 ・「茶道教室」を通して、礼儀作法の大切さに気付かせ、真心を込めてあいさつができるよう指導する。 ・道徳の授業で言葉づかいやあいさつに表れる人間関係や自身の心のありようをじっくり見つめ直すことの大切さを指導する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.4%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・「茶道教室」や道徳の授業等、あらゆる場面であいさつの大切さを気付かせるとともに、生徒会主体で行っているあいさつ運動の充実を図る。</p>

	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・学年学級委員会などと協力し、授業開始のチャイムが鳴る前に自ら着席するなど、時間に余裕を持って行動できるよう指導する。</p> <p>・ネットトラブル防止に関する指導を全体及び学年ごとに実施する。また、保護者会の機会を捉えて情報提供し、理解・協力を要請するとともに、小学校との連携も強化する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.7%であり、数値目標に達した。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・生徒会を中心とした、きまりやマナーを守るための主体的な活動を支援する。 ・道徳・学活の授業等で、情報モラルを身に付ける授業を実践する。</p>
	<p>B3 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%</p>	<p>・断郊協歩大会を行い郷土の自然や風景に接し、これらを末永く大切にしようとする心を育てる。</p> <p>・かまどベンチを利用した防災教育を実施し、地域防災に対する意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は82.9%であり、数値目標に達しなかった。地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>B 【次年度の方針】 ・断郊協歩大会では、郷土の自然や風景に接し、宇都宮について知る機会とすることにより、「宇都宮学」を充実させる。 ・防災教育等を地域の協力を得ながら行い、特色ある教育活動を展開していく。</p>
	<p>B4 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 70%以上</p>	<p>・「家庭学習の手引き」を年度初めのオリエンテーションや学級活動の時間で生徒へ配付し、学年の学習係や学級担任から説明する。保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図る。</p> <p>・自主学習ノートを定期的に点検し、自分の立てた目標を達成するために粘り強く家庭学習に取り組めるよう啓発、指導をする。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は生徒が83.4%、保護者が61.9%であり、共に数値目標に達しなかった。</p> <p>A 【次年度の方針】 ・「家庭学習の手引き」を年度初めのオリエンテーションや学級活動の時間で生徒へ配付し、学年の学習係や学級担任から説明する。保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図る。 ・自主学習ノートを定期的に点検し、自分の立てた目標を達成するために粘り強く家庭学習に取り組めるよう啓発、指導をする。</p>

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・宇都宮市の共通項目となる22項目（A1～A22）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た全63項目のうち、肯定的回答の割合が80%を上回った項目は51項目（全体の80.9%）であることから、本校の教育活動が全体的に肯定的に受け止められていると捉えられる。

【学校運営に関する項目について】

・全教職員が課題解決のためにチームとして取り組む協力体制の確立を目指し、学校行事、学力向上、生徒支援、特別な配慮が必要な生徒への指導などにあたることができた。

・A13、A15、A17、A18については、数値指標を上回った。特に、A15では、昨年度より2.7ポイント、市中学校平均より4.8ポイント上回って結果であった。複数で業務や指導にあたる教職員の姿があり、組織的な対応を心掛けた結果であると考えられる。

・B3については、地域住民の100%に対し、教職員は82.9%で数値指標を2.1ポイント、昨年度より14.3ポイント下回った。伝統行事である断郊協歩大会が雨天中止となったことが教職員の肯定的回答率に影響したと思われる。

・A9については2.3ポイント、A16は2.9ポイント、数値指標を下回った。今後は、生徒に災害や環境問題、SDGsなど、身の回りに起こっている出来事に考えさせることで「持続可能な社会」に関心をもてるよう指導していきたい。また、ICTの活用を更に充実させ、教職員の業務の精選、効率化を推進していきたい。

【生徒支援に関する項目について】

○よりよい人間関係づくりに向け、個に応じたきめ細やかな指導を心掛けて指導することができた。

・生徒支援に関する全ての質問項目について数値指標を上回ったが、生徒は昨年度及び市中学校平均を下回っていることから、生徒は現状に満足しておらず、自分は「もっとできる」という思いがもっていることが分かる。

・B1については、生徒、教職員、保護者、地域住民とも肯定的回答は90%を超えており、市中学校平均を教職員は6.0ポイント、保護者は5.7ポイント上回った。一方、地域住民は昨年度より7.7ポイント、市中学校平均を3.5ポイント下回る結果となった。今後も、生徒が誰に対しても時と場に応じたあいさつ、心を込めたあいさつが自然にできるよう指導を継続していきたい。

・B2については数値指標を9.7ポイント上回ったが、昨年度より教職員は8.6ポイント、保護者は3.4ポイント、市中学校平均を教職員は3.6ポイント、保護者は2.2ポイント下回る結果となった。きまりやマナーを守ったり、ネットトラブル防止に関する指導を含めた情報モラルを身に付けたりすることができるよう指導を充実させたい。

・A3についての肯定的回答は、教職員は68.6%、保護者は76.5%であり、8割に届かなかった。また、昨年度より生徒は2.7ポイント、教職員は14.7ポイント、保護者は5.5ポイント、市中学校平均を生徒は3.3ポイント、教職員は18.0ポイント、保護者は5.7ポイント下回る結果であった。学校行事や部活動を通して、最後まで諦めず、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、目標をもって学校生活ができるよう指導していきたい。

○A5については数値指標を2.8ポイント上回ったが、市中学校平均を5.8ポイント下回る結果となった。今後も、自分のよさや成長を実感する場を意図的に設定したり、地域行事に積極的に参加し社会貢献する態度を育てたりする指導を継続していきたい。

【学習指導に関する項目について】

○学習意欲の喚起、実態に応じた指導方法の工夫、主体的・対話的な学びなど、自ら学び考える生徒の育成に努めた。

・A7、A14、A20については、数値指標を上回った。特に、A20では、市中学校平均より7.1ポイント上回って結果であった。授業におけるデジタル教科書や1人1台端末の効果的な活用など、教職員同士で適切な場面でのデジタル機器の活用について話題にすることが多くなり、教職員一人一人のデジタル機器活用能力が向上したことが肯定的回答につながった。

・A1については、生徒は数値指標を8.4ポイント上回ったが、教職員は8.5ポイント、保護者は5.1ポイント市中学校平均を下回った。受動的な態度で授業に取り組む生徒も多いため、課題に対して深く考えることまでには至っていないと思う教職員や、家庭での様子からもっと主体的に学習に取り組んでほしいと願う保護者の思いが結果になったと思われる。

・A6については数値目標を14.4ポイント、市中学校平均を7.9ポイント下回った。教職員は昨年度より19.3ポイント、市中学校平均を5.2ポイント上回っていることから、ALTを含め、授業の中で英語を使ってコミュニケーションをとる機会は多く取り入れられたが、生徒自身が英語を使ったコミュニケーションはできていないと思う正直な気持ちが表れていると考える。

・A8については数値目標を11.8ポイント、市中学校平均を7.2ポイント下回った。また、教職員は昨年度より8.6ポイント、市中学校平均を6.5ポイント、保護者は昨年度より1.5ポイント上回ったが市中学校平均を3.5ポイント下回った。生徒が1人1台端末を学習の道具であること、本や辞書、資料など活用しながら学習することは学力につながることを指導していきたい。

・B4については、生徒は1.6ポイント、保護者は8.1ポイント、数値目標を下回った。また、保護者は昨年度より5.9ポイント上回ったが、生徒は5.5ポイント、教職員は17.5ポイント下回った。物事をやり遂げた経験は学力向上につながることから、学習習慣が身に付き、学習した内容を理解したり、宿題や課題以外に自分で計画した家庭学習を進めることができたりする生徒の姿が見られるよう、根気強く指導をしていきたい。

【健康体力に関する項目について】

○危険の予測や危機回避能力の育成を図る防災教育、健康管理や体力づくり、食育など、指導の充実に努めた。

・A4、A19とも、数値指標を上回った。特に、A19では、市中学校平均より5.2ポイント上回って結果であった。毎月の安全点検を確実にを行うとともに、学校業務市会計年度任用職員や月2回、市から派遣される機動班職員による、修繕箇所についての早期改善が図られていることが肯定的回答につながった。

7 学校関係者評価

- ・いつも学校での細やかな指導に感謝している。
- ・生徒と共に活動にはできる限り参加していきたい。
- ・全体的に保護者の数値が低いと思う。
- ・生徒自身が厳しい評価をすることは決して悪いことではないが、もっと肯定的回答率が上がってもよいのではないかと考える。
- ・生徒の部活動に熱中している姿は素晴らしい。一人でも多く部活動に入ってほしいと思う。
- ・小学校や地域の行事にもっと中学生がボランティア等で参加してもらえるとよい。
- ・教職員と生徒の結果を見ると、教える立場と教わる立場の違いがあり、教職員と地域住民、生徒と保護者で肯定的回答が同じ傾向が見られる。

- ・生徒も教職員も気持ちよく学校生活を送ることができる空間をこれからも作ってほしい。
- ・生徒の学習への主体的な取り組みを促すためには、目的意識や何のために学習するのか考えさせ将来へのイメージをもたせる授業、そして家庭でのサポートが必要だと思う。「学習したくなる部屋とは」などのテーマで片付け講座など親学を行ってみてはどうか。
- ・小学校の結果もほぼ同様で地域学校園で同じ傾向にある。特に、児童生徒の自己評価が低く、自己肯定感や褒めて伸ばす、互いに認め合う指導の必要性を感じた。児童生徒の肯定的回答が高かった項目は教職員から始まる質問だった。教職員の取り組みが児童生徒に伝わっており、周囲を認められる素直な児童生徒たちが学校園で育っていることは嬉しい限りである。
- ・社会体験学習や小中合同あいさつ運動、音楽朝会での合唱発表などでの中学生は、気持ちのよい挨拶ができ、ルールを守って行動している様子が見られた。
- ・小学生は中学校に対してよい印象をもっており、憧れの対象として自分たちも頑張る気持ちにさせてくれる存在となっている。
- ・授業参観の様子は、どの学級も落ち着いて授業に取り組んでおり、先生方との関係もよく、進んで学習していた。
- ・生徒は全体的に明るくいきいきと活動に取り組んでいる。また、挨拶がきちんとできる生徒が多く、教職員が熱心に取り組んでくださっていると思う。
- ・学校行事や部活動などで粘り強く取り組む姿勢や目標をもって何事にも行うように指導を継続してほしい。
- ・地域行事や活動に生徒が自ら参加するなど、社会貢献する姿勢が身に付くとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体アンケートの結果から、概ね本校の教育活動について肯定的に受け止められていると捉えられる。次年度も活動の見直しや工夫をしながら更なる充実を図っていききたい。
- ・生徒一人一人に寄り添った指導を通して、豊かな人間性の育成や確かな学力の定着を目指すとともに、生徒、保護者、地域の信頼を更に高めていきたい。
- ・生徒の自ら学ぶ力の育成を目指し、家庭学習の習慣化や家庭学習の質的な向上のため、家庭と連携し、認めて・褒めて・励ましてといった生徒のやる気を引き出す声かけや支援を継続していく。
- ・いじめや不登校の未然防止に向けて、スクールカウンセラーやメンタルサポーターをはじめ、外部機関と連携を図りながら学校全体で早期発見・早期対応ができる体制を強化していく。
- あいさつをより一層定着させるために、日頃の教育活動の中から生徒の意識を高めるよう努めていくとともに、地域の小学校や地域協議会とも連携を図りながら、生徒会を中心としたあいさつ運動を活性化していく。
- ・生徒が「分かった・できた」と実感できる授業、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業を目指し、一人一授業や研究授業等で授業を公開したり、研修会を行ったりするなど、教職員の更なる授業力の向上に努めていく。
- ・働き方改革に向けて、行事の見直しや教職員の勤務時間の意識改革、及びリフレッシュデーの実施など、一人一人が業務改善に積極的に取り組んでいく。
- 地域社会の一員として、地域の理解・協力を得ながら、生徒が地域行事に積極的に参加する機会をつくり、地域に貢献していこうとする意欲を育てていく。
- ・学校からの情報を積極的に発信し、保護者・地域住民・学校関係者等の多くの方々の協力を得ながら「チーム宝木」を推進していく。